市民による芸術文化の共同事業体情報誌「ぬーべるふぉんてーぬ」
76
Nouvelle Fontaine
発行日 2022年10月25日
発　行 岸和田文化事業協会
〒596-0073　岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
https://jisen.jp

Music Art 'nd Theater Association

星空の誘惑

核融合科学研究所
矢治 健太郎

旅先でよく星空を眺める。旅先といっても、必ずしも街明かりが少ない、空気が済んだ場所とか限らない。いわゆる都会の真ん中で、ふと空を見上げるとビルの合間から星がぽつんと見える。「なんの星かな」「なんの星座かな」と思うのがほとんど習慣になってしまっている。

それでも日本国内で一番記憶に残っている星空は、大学の天文部の合宿で出かけた長野県の乗鞍高原で見た星空である。天の川がめちゃくちゃくっきり見えていて、アンドロメダ銀河が肉眼でも見られたことに感動したものだ。ちょっと変わったところでは、大学院時代に人工衛星の運用で出かけた鹿児島県の内之浦。冬に見える一等星にカノープスという星があるのだが、この星は地平線近くに見えるので、中国では見えると長生きができると言われていると。ところが鹿児島では、緯度が低いのでこのカノープスが高く見えてしまうものだから「なんかご利益ないな」と思ったものである。

アフリカで見た天の川

海外で見る機会も多い。海外でとなると、約20年前に皆既日食の観測で出かけたアフリカのザンビアで見た星空である。とにかく夜が真っ暗なのである。ときおり遠くから聞こえる獣の声らしきものが、その暗さに一層拍車をかける。帰国して、日本のコンビニの照明がとても明るく感じたものだ。それからもう一つ、南半球に位置するので日本で見える星座とはかなり違う。時期や場所によってはあのオリオン座が見えるときがあるのだが、それでもなんとなく違和感を感じるのである。

こんなふうに、いろんなところで星空の誘惑にかられて(タイトル回収！)星空を眺めるわけだが、いつから星空を眺めるようになったのかあまり記憶がない。そもそも、なぜ天文や宇宙に興味を持つようになったのか？親の話によると、宇宙ステーションのテレビ中継で興味を持ったとか。あるいは、小さい頃に天文や宇宙の本を読んだせいかもしれない。

ただ小学校１年のときに、七夕の短冊に「大きくなったら、天文学者になりたい」と書いたことはよく覚えている。２年のときには「うちゅう」という作文を書いて、学校新聞に載った。４年のときには天体望遠鏡を買ってもらって、月や惑星や星雲などを見た。そして「大学で天文学を勉強するぞ！」とがんばって勉強するわけだが、大学に入るのに２年かかってしまった。そうは言っても、念願かなって大学で天文学を勉強することができて、天文関係の仕事にいまだに携わっていることは感謝としかいいようがない。

さてそんな星空オタクの経験を踏まえて、11月13日(日)に秋や冬に見える星空の話をさせていただく。秋ならペガスス座やアンドロメダ座、冬ならオリオン座や冬の大三角だろうか。こんな旅先の思い出も交えながら、皆さんを星空に誘い惑う助けになればと思っている。

おはなし聞かせて 18

各分野で活躍し岸和田にかかわりのある方々に、お話をお聞きします。

岸和田生まれの「スペースインベーダー」

株式会社タイトー アドバイザー　西角 友宏

私は現在横浜市に住んでいますが、岸和田市堺町で生まれ育ちました。父はのこぎりの目立てや製作が仕事で、いわゆる職人でした。自宅の仕事場にはいろいろな工具や木材などあって、父は自由にそれらを使わせてくれました。子どもの頃はそれらを使っておもちゃの飛行機や船や地車などを作って、友達によく自慢して見せていました。当時遊びと言えば今のような電子ゲームは無く、近所の友達が集まってメンコ（仲間内ではベッタンと言っていました）やビー玉等を使って、取り合いをして遊んでいました。ルールは大体の決まりがありましたがもっと面白くなるように、他の町とは違う独自の遊び方を考えていました。このような子どもの頃の物作りや遊びが、将来のゲーム開発に役立ったと思っています。

堺町は海も駅も比較的近くお城も商店街も近くにあって、環境の良い町だと思っていました。しかし高校は大阪市内の桃山学院に進んだため、クラスメイト何人かに「どこから来てるの？」と聞かれ「岸和田」って答えたら「岸和田？」ってちょっと引かれました。どうやら柄の悪い土地だと思われているようで、地車の評判が影響しているようでしたね。

今の地車祭りは安全第一で全国からの観客を迎えていますが、我々の時代は見るのは主に地元の人で、地車の走行も一方通行ではなく両方通行もありました。ですから地車が行き交う時は、他町の地車と接触しないように慎重でした。ぶつかると大抵は喧嘩が始まり、けが人が出たりして荒っぽい祭りとして知られていたのでしょうね。

㈱タイトーのエントランスに設置してあるスペースインベーダー筐体前で

私の家は地元では知られている堺町の難所S字カーブのそばで、近くの家の屋根瓦は大抵毎年新しくなっていたものでした。私も17歳くらいまで地車を曳っぱったり笛を吹いたりしていましたが、高校を卒業して上京しました。東京の大学を卒業後は、オーディオの会社を経て（株）タイトー傘下のゲーム開発会社に入社しました。いろいろ苦労しながら20機種以上のゲーム機を開発しました。代表作は「スペースインベーダー」です。このゲームで今の日本のゲーム市場を発展させたと評価していただいています。それもこれも子どものころの遊びや物作りの経験が原動力だと思っています。

また岸和田は私の誇りでもあります。雑誌等の取材で出身地を聞かれるときは、必ず岸和田市としてもらっています。

現在は（株）タイトーのアドバイザーという肩書きをもらっていて、ゲーム業界でまた新しい何かをと夢を馳せている今日この頃です。

フランスで講演を行った際に現地のメディアから取材を受けている様子

『熊沢友雄日記』

～岸和田藩士の暮らしをたどる～

嘉永五年(1852)から明治二十八年(1895)までの間記述された『熊沢友雄日記』。このページでは岸和田まつり関連の日記を抜粋しご紹介していきます。

※月日は新暦

明治九年（1876）

九月十四日　明日氏神祭事に付、今日より町々より檀尻を出す往古より我氏神祭日六月・八月・十一月共に十三日を以て神祭を行ふの処、本年より堺県の令として①岸和田北方並野村町マデ同日に相成り、今日十五日を以て祭日と定めたるの由維新以来時勢の権宜を尽さす、百事古を非とし、延ひて神武祭日を改むるに至る其理のある所を知らす神慮如何又知る可らざる也

九月十五日　氏神祭日、赤小豆飯を煮、各種の肴菜を調し客設をなす然るに朝の間よりたに至るまで大雨絶へ間無く、道路波を揚るに至るに依て上松忠右壱人の外来客なし、各町より出す処の檀尻大雨に依て難渋云ふ計りなし、②果して神慮祭日の改日を歎ひ給はさる、昨今の大雨を以て知る可きか　穴賢

明治十年（1877）

七月二十三日　（旧六月十三日）
神祭に付、市中休業、諸町より太鼓台を出し神拝す　夜に入児輩を連れ参拝せり

九月十四日　明日氏神神祭たるに依り、今朝未明より町々檀尻を引出し、市中頗雑踏せり

九月十五日　氏神神礼に付、神酒を備へ赤小豆飯を献し祭日を祝す、諸町より出る③檀尻凡そ二十あり幼者より大人に至るまで各衣装を粧ひ、④之を曳き之を押す今年在方豊作たるにより、一日を費やし見物として来る男女亦夥敷、市中殊の外賑せ　今日岡田父子・間下父子・奥野新右衛門・真上森田老人・上松忠右衛門凡九人の来客あり、一汁二菜・下物三種にて酒を出す

①現在の天神地区
②熊沢の見解：祭礼の日を県庁主導で変更したことに不信感を表している。大雨が降り、曳行が難渋するのは勝手に祭日を変更し、氏神が怒っているのではと憤慨している。
③現在、旧市では二十台曳行
④当時は上だんじりも曳行されていた

2006年に現在の日程になるまで、岸和田祭りは9月14、15日でした。明治9年に決められた事だったのですね。平日の14日は祭礼地区の小中学校は休みで、朝早くから子どもも大人も、男も女も、町に繰り出していました。日記にある各衣装というのは今の法被のようなもの？かけ声は「そーりゃ」？お客様を迎えお酒を酌み交わすのも、現代と同じですね。祭りを大切にし、待ちわび、楽しむ気持ちが文章から溢れてくるようです。

岸和田七宮詣 岸和田の神社を訪ねる⑤

延喜式内社 兵主神社

兵主神社は、天正年間に兵火により多くの古記録が紛失したため創建の年代はわかりませんが、延喜式という古い文献の「和泉国和泉郡廿八座」の中に「兵主神社」と明記され、これら延喜式内社を注解した『神社覈録』（じんじゃかくろく）には「兵主神社、兵主は音読也、祭神明也、南部掃部郷西之内村に在す」とあることから、千有余年前には存立されていたことがわかりました。「延喜式神名帳」以外に「神祇志料」「大日本史」「大日本風土記」「伊呂波字類抄」「和泉志」などの諸文献にも古来より建立していたとの記録があります。

本殿は、桃山時代に再建され大正13年特別保護建造物（国宝）に指定されました。昭和25年重要文化財と名称が変わりました。

兵主神社は、元掃守郷の総社にして「大宮」と称され雨降の神として宗敬されました。昔は春木、加守、尾生、別所、下松、西之内、藤井、額原、沼、野、上松の各村と山直郷の包近村の12カ村より禰宜一人ずつを出して奉祀してきましたが、天正年間の兵火のあと各村はそれぞれ氏神を勧請したので、兵主神社は西之内村だけになりました。明治42年下松村の八幡神社、菅原神社及び厳島神社を合祀してからは西之内村と下松村になりました。

10月に行われる「だんじり祭」では、西之内町、下松町、八阪町が宮入します。

天降の面

社宝である九面の能面は「天降（あめふり）の面」といわれ、寛永六年（1629年）の古文書に「昔より奈良、大阪より能役者を雇い、氏子とも相加わり正月17日、8月1日、1年に二度ずつをよろこび能仕候」「能おわりて候て62年と覚え候」とあり、1567年（永禄10年）で足利義栄将軍の時代となりますが、いつから能舞を始めたのかはわかりません。以前は拝殿の右手に天正の変に焼失した能舞台の跡があり、寛保三年（1743年）には、岸和田藩主岡部長富公より桐箱及び金襴の面袋を寄贈されました。「天降の面」を実際に見たい方は、事前予約をすれば見せていただけます。

龍神

ご神木

江戸時代に行われた雨乞祈願の際には別当久米田寺多聞院を招き蛇淵（じゃぶち）にて読経があり、降雨に対する雨礼の祭典では氏子総出による笹踊り又は花笠踊りや仮装したりし、その踊りは明治初期まで当地に伝えられました。蛇渕には、大蛇が棲み久米田池へ通ったと伝えられています。

兵主神社の社叢（しゃそう=神社にある森のこと）は、1974年に市指定天然記念物になりました。楠木やクロガネモチなど様々な木々が生い茂っており、とても気持ちのいい空間になっています。

境内では「音と踊りのイベントGENTEN」が開催されたり、毎年5月から7月の７のつく日に夜店が開かれています。

日の出（兵主神社HPより）

元旦のみ鳥居の中央から日の出を見ることができます。

御朱印

＜御祭神＞
天照皇大神（アマテラススメラオオミカミ）
八幡大神（ハチマンオオミカミ）
菅原道真公

＜末社＞
弁財天（厳島神社）市杵島姫命奉祀（イチキシマヒメノミコトホウシ）
稲荷社（稲荷神社）豊受姫命奉祀（トヨウケヒメノミコトホウシ）
龍神社（龍王神社）豊玉姫命奉祀（トヨタマヒメノミコトホウシ）
恵比寿社（大宮戎神社）事代主神奉祀（コトシロヌシノミコトホウシ）
牛神社（牛王神社）牛頭天王（ゴズテンノウ）

兵主神社
岸和田市西之内町1-1　072-443-1097

兵主神社HP

令和の岸和田城

お城の近くで育ったので、岸和田城は遊び場所でした。
城内にあった図書館にも通いました。
あれから数十年･･･。
そういえばお城に行ったのはいつのことだっけ？
ということで岸和田城を訪ね、
岸和田市観光振興協会の阪井郁美さんに
お話を伺いました。

阪井郁美さん

門をくぐり、すこし坂になった道を辿ると国指定名勝「八陣の庭」が広がります。天守閣へ続く石の階段。その風情は昔と変わりません。いざ岸和田城！と階段に足をかけたところに、天守閣の横合いから出てきたおじさんが「これあげよう」と小さな実をくれました。桃です。この奥に原木が３本あると教えてくれたのは、シルバー人材センターの野添さん。１０年以上お城で勤め、各所の手入れの他、八陣の庭の砂紋も描いています。砂紋は重森三玲氏の孫、千青（ちさお）氏に習いました。崩れたら描き、雨がないと砂がカチカチになって大変なのだそうです。「夏は直射日光と照り返しでなかなか描かれへん。苦労ばっかりや」と言いつつも、長く続けてきたのは「楽しいから」とのこと。終始笑顔の野添さんでした。

江戸時代の駕籠

さて城内です。昔の図書館は現在、展示室になっていて、仏像や掛け軸、岡部家より寄贈していただいた貴重な資料などを見ることができます。展示品は随時入れ替わり、この日は河合町の長徳寺に伝わった江戸時代の駕籠の体験展示がありました。中には背もたれもあり、思ったよりもゆったりと余裕があります。誰が使用していたのか不明ですが、とても貴重なものである可能性も否定できないそうで、大名やお姫様気分で往事に思いを馳せるのもいい気分でした（現在、体験は終了。展示のみです）。図書館だった場所に展示ケースを設置しているので妙な隙間や展示室にはあり得ない窓があるというのも、初めて聞いた話でした。

いよいよ最上階です。なんと眺めのいいこと！海が見える、山も見える。たくさんの家並み、眼下には八陣の庭。「ああ、岸和田はええとこや」岡部のお殿様もそう思ってこの景色を眺めたかもしれません。ここで令和の時代ならではのものを見つけました。AR技術を使ったアプリです。ダウンロードすると、市のイメージキャラクターちきりくんや、八陣の庭の各石をイメージしたキャラクターと写真撮影が出来るのです。他にもカラフルな手作りタコ風鈴を飾ったフォトスポット（８月28日で終了）や、大阪城・尼崎城とのコラボスタンプラリー（全て参城し絵図を完成）など、今の時代の工夫が見られました。

AR技術を使ったアプリで

美しい庭園で知られる五風荘は、岸和田城が再建される前の建設だったためお城を望むことを想定しておらず天守閣の見える部屋がほとんどない、お堀の水を浄化させる装置が設置された、登城記念として御朱印ならぬ御城印がある等々、天守から景色を眺めながら興味深いお話を伺いました。週末には100～200人が訪れ「来てみたらイメージが変わった。文化のたくさんある町ですね」と言われたことが嬉しかったそうです（今年のお城まつりは1日で1300人以上が来客した日もありました）。今後も岸和田市観光振興協会では様々なイベントを予定しています。

岸和田城は過去を見るだけでなく、歴史と現代が混ざり合った場所になっていました。そしてやはり岸和田のシンボルで誇りだと、改めて感じることのできた時間でした。

（取材：黒木・小末）

一語一縁

Ichigo-Ichien

【未来へ　ここから】
子どもたちから学ぶ音楽

自泉アーティストバンク　久保 侑可

私がクラリネットを始めたのは13歳の時、中学校へ進学し吹奏楽部に入部したことがきっかけです。それまで習い事も音楽には関係の無いものばかり、音楽の授業も苦手でした。

そんな私が音楽を続けてこられたのは、中学校の吹奏楽部の環境が良かったからだと思います。何もわからない私を引っ張ってくださった先輩、支え合える同級生、後輩も必死に付いてきてくれて、先生も毎日夜遅くまで生徒と向き合ってくれました。

現在、有難いことに中学校の吹奏楽部の指導をしています。

新型コロナウィルスや教員の長時間労働など様々な問題があり、私の中学時代のような練習はできなくなっていますが、短時間でも達成感や楽しみを子どもたちに感じてもらうにはどのように接すれば良いのか、子どもならではの音楽の捉え方など日々勉強しながら指導に務めています。

私が中学生の頃に感じた音楽の魅力を少しでも子どもたちが感じてくれていればいいなと思います。

子どもたちがなんの制限もなく自由に音楽を楽しめる日が来ますように。

【未来へ　ここから】
歌とわたし

自泉アーティストバンク　永田 雅子

私が声楽を始めたのは小学校2年生の時でした。歌うことが元々好きだった私ですが高校進学の時、このまま歌を続けたいか、それとも辞めて趣味として音楽を続けるかという選択に迫られました。

その時に「やはり私は音楽をしたい歌い続けたい」という思いが強くなり、音楽科のある高校に進学しました。

歌うことは好きですが、日々生活していく中で自分の実力に思い悩む時や本当にこのまま音楽を続けていくことに意味はあるのかなど、いろんな壁にぶち当たることがあります。そんな時に、人の演奏や好きな曲を聴くと当たり前ですが元気を貰えます。音楽は人の心に響くからこそ意味があり、誰かの心を救ったりする力があります。そう思うと「私も誰かの心に響く歌を歌いたい！」とエネルギーが湧き上がってきます。

挫けては失敗、でもやっぱり歌が好き。そんな繰り返しで今の私はあります。聴いて貰えた方に「心に響きました」と言っていただく事が何よりの活力であり、これからも人の心に響くような、誰かの「音楽っていいなぁ」のキッカケになりたいなと思います。

＊岸和田文化事業協会は、自泉アーティストバンクをとおして若い芸術家を応援しています。

＊一語一縁のページでは、会員の紹介に加え【未来へ　ここから】と題し、自泉アーティストバンク登録者も紹介して行きます。

Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

第11回 自泉ジュニアコンサート

日　時:令和4年8月21日(日)午後2時開演
会　場:岸和田市立文化会館(マドカホール)
入場者数:91人

受賞者:岸野　花音　高校1年生　ピアノ　(最優秀賞)
石川　翼光　小学4年生　ピアノ　(優秀賞)
宮本　　涼　高校3年生　クラリネット　(優秀賞)

〈皆さんの声〉

◆自身の子どもと同世代のお子様の活躍に大変感動しました。今日来られなかったわが子にも是非見せたかったです。同年代のレベルの高い演奏に多いに刺激を受けるかと思います。

◆出演者の皆さんの演奏に圧倒され感動しました。コンサートに来てよかったです。

◆素敵な機会が学生の頃から頂けてありがたいです。

ジュニアコンサート参加の皆さん

岸野　花音さん

石川　翼光さん

宮本　涼さん

岸和田文化事業協会の事業 Information

●文化の日祝典記念事業
時代を楽しむ音楽会 古典派編 ～"私たち"の音楽の幕開け～

日　時:令和4年11月3日(木・祝) 午後1時30分開演
会　場:マドカホール(岸和田市立文化会館)
出演者:原　由莉子 (ピアノ)
　　谷村　悟史 (ナビゲーター)
定　員: 150名
主　催:岸和田市・岸和田市教育委員会

入場受付は終了いたしました。ご了承ください。

●「ストリートピアノin自泉会館」自泉会館のピアノで演奏してみませんか

日　時:令和4年11月6・8・10・11・13・15・16・17・18・19日
　　午後6時～8時
会　場:岸和田市立自泉会館ホール
参加費:無料

※申込の必要はございませんが、譲り合って演奏してください。

●自泉 灯りワークショップ(日時・会場・講師・参加費)

①籐を編んで優しい灯り
(A. 10月16日(日) 午前10時～正午 ※終了しました。
・西念陶器研究所・坂東重信・2500円)
(B. 10月30日(日) 午前10時～正午
・西念陶器研究所・坂東重信・2500円)

②麻ひもを使ったボール状の灯り ※受付終了しました。
(11月6日(日) 午前10時～正午
・自泉会館展示室・金子零二・1500円)

③陶器でつくる温もりのある灯り
(A. 11月12日(土) 午前10時～正午・自泉会館事務所
・西念秋夫・大人3000円/小中学生2000円)
(B. 11月23日(水・祝) 午前10時～正午・自泉会館展示室
・西念秋夫・大人3000円/小中学生2000円)

申込受付: 各開催日の1週間前まで(先着順)
※参加費は当日いただきます。
定　員:各10名

●宇宙のお話 ～矢治健太郎さんに聞く part II ～ 星座盤を使ってみよう

日　時:令和4年11月13日(日)午後6時開始
会　場:岸和田市立自泉会館展示室
講　師:矢治 健太郎
対象学年:小学生(保護者は参加可、参加費も要)
参加費:1,000円(星座盤・資料代等含む)
※参加費は当日いただきます。
定　員:30名

※75号ふぉんてーぬで開始時間を午後2時とお知らせいたしましたが午後6時に変更となりました。

●時代を楽しむ音楽会　初期ロマン派編

日　時:令和4年12月9日(金)午後7時開演
会　場:岸和田市立自泉会館ホール
出演者:谷村 綾香 (ピアノ)
　　うっちー (ナビゲーター)
チケット代:前売2,000円(当日500円増)
チケット販売場所:岸和田市立自泉会館事務所
定　員:50名

お知らせ　会員の方は8面に文化情報を掲載することができます。掲載希望の方は事務所までお越しいただき用紙にご記入ください。多数希望の方がいらっしゃる場合や当協会主催の事業がたくさんある場合はご希望に添えないこともあります。ご了承ください。

お願い　岸和田文化事業協会で取り上げてみてはどうかと思われるコンサートや展示会がございましたら、ぜひ事務所まで案を届けてください。今後の参考にさせていただきます。

●自泉会館では、新型コロナウイルス感染症防止のため事業鑑賞人数等を縮小して行っています。
●自泉会館をご利用の際は、手指の消毒、マスク等の着用、社会的距離の確保、体調の悪い方の入館はご遠慮ください。また館内は換気のため扉等を開放しています。

岸和田文化事業協会の事業 Information

●第6回自泉クリスマス会「灯り展」

自泉灯りワークショップに参加された方々の作品を中心に展示します。

日　時：令和4年（2022年）12月16日(金)～18日(日)
　　午前10時～午後5時
会　場：岸和田市立自泉会館展示室
入場無料

●第69回自泉フレッシュコンサート

日　時：令和4年12月16日(金)午後6時30分開演
会　場：岸和田市立自泉会館ホール
出演者：浦部　晏未　(ピアノ)
　　中地　莉子　(ピアノ)
　　藤本　紗穂　(クラリネット)
チケット代：会員前売1,000円(当日200円増)
　　一般前売1,200円(当日200円増)
チケット販売場所：岸和田市立自泉会館事務所
定　員：50名

●第6回自泉クリスマス会　合唱ワークショップ

日　時：令和4年12月17日(土)
　　初心者向け：午後1時～2時30分
　　経験者向け：午後3時～4時30分
会　場：岸和田市立自泉会館ホール
指導者：大原　陽羽　(ソプラノ)
参加費：1,000円 ※参加費は当日いただきます。
申込受付：11月8日(火)より、電話またはメールにて先着順
定　員：各20名

●第6回自泉クリスマス会
あわてんぼうのクリスマスコンサート

日　時：令和4年12月18日(日)午後2時開演
会　場：岸和田市立自泉会館ホール
出演者：石川　翼光　(小4・ピアノ)
　　岸野　花音　(高1・ピアノ)
　　宮本　　涼　(高3・クラリネット)
　　※第11回自泉ジュニアコンサートで優秀な成績をおさめられた方々
　　上林　莉奈　(ピアノ)
　　※自泉ジュニア・フレッシュコンサートを経て演奏活動中
チケット代：前売1,000円(当日500円増)
チケット販売場所：岸和田市立自泉会館事務所
定　員：50名

●３館合同事業
令和岸和田風物百選展覧会
～伝え継ぐ岸和田～

岸和田市市制施行100周年を記念して、岸和田にゆかりのある小学生以上の方々から募集した100点の美術作品展覧会です。

日　時：令和4年12月23日(金)～25日(日)
　　午前10時～午後5時
会　場：マドカホール(岸和田市立文化会館)展示室
入場無料
主　催：岸和田市、岸和田文化事業協会、
　　南海・テレ岸グループ

●時代を楽しむ音楽会　後期ロマン派編

日　時：令和5年1月13日(金)午後7時開演
会　場：岸和田市立自泉会館ホール
出演者：髙木　真実子　(ピアノ)
　　うっちー　　(ナビゲーター)
チケット代：前売2,000円(当日500円増)
チケット販売場所：岸和田市立自泉会館事務所
定　員：50名

■申し込み・問い合わせ

岸和田文化事業協会事務局まで

〒596-0073　岸和田市岸城町 5-10　岸和田市立自泉会館
TEL/FAX　072-437-3801
E-mail　fontaine@sensyu.ne.jp

令和4年度（2022年度）(2022年4月~2023年3月)

会員募集

年会費	個人会員（1口）	2,000円	団体会員（1口）	5,000円
	家族会員（1口） （個人会員の同居家族）	1,000円	法人会員（1口）	10,000円
			特別会員（1口）	50,000円

入会方法　協会事務局（自泉会館）で直接受付致します。
郵便振込の場合は 口座番号 00970—9—28145
加入者名　岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで
TEL/FAX 072-437-3801　Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

nouvelle Fontaine
vol.76
発行：岸和田文化事業協会
発行日：2022年10月25日

編集後記…

スポーツの秋、芸術の秋、文化の秋、そして　そして　食欲の秋……感染対策をしながら今年も秋を満喫しましょう。
（近　江）

◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10　岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員　小末もとえ・近江和代・小木曽由季
　　片山智信・黒木幸子・阪井正明

https://jisen.jp
岸和田文化事業協会　検索